

## 九州歯科大学第70回卒業式

### 式辞

今年度も依然として、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、国内外を問わず、人々の心身を脅かす存在となっています。大学としては、COVID-19 対策会議のもと組織的に対応し、教育・研究・診療などについて、学生・教職員が安全・安心な就学・就業環境のもと活動できることを最優先に考えて大学運営を推進してきました。

今日、卒業式に臨んでいる歯学科6年次生、口腔保健学科4年次生は、昨年6月に一回目のCOVID-19 ワクチン接種、次いで、2回目の接種を受け、実習生として臨床経験を重ね、感染することなく今日の日を迎えることができました。また、政府の方針のもと、医療職に対して、第3回目の接種が展開されましたので、皆さんは現時点で考えうる全てのワクチン接種を受けることができたかと思います。

このような在校時の大学における COVID-19 ワクチン接種をもって、新たな分野においても適正な医療活動を展開することを期待しています。

今年度の卒業式も、COVID-19 禍中ということ鑑み、「新たな生活様式」のもとでの「密閉、密集、密接」いわゆる 3 密回避に配慮した式次第で執り行います。そのようななか、本日、ここに、服部誠太郎福岡県知事及び秋田章二福岡県議会議長のご出席を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。一方、COVID-19 の現況を鑑み、来賓各位ならびに保護者の皆様には、今回、ご臨席のご案内を控えさせていただきました。本学に入学以来、成長を見守ってこられた皆様方のお喜びは一方ならぬものと拝察しております。今年度は、直接、言葉でお伝え出来ないもどかしさを感じるなかではありますが、保護者の皆様には、この場にて心よりお祝い申し上げます。

さて、歯学科 70 期生及び口腔保健学科 9 期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日まで過ごした大学での思い出がつぶさに蘇り、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、歯科医療の世界で、明日から君たちが澁刺として活躍する姿を思い浮かべ、社会に貢献する歯学士及び口腔保健学士に育て上げたという安堵感とともに、本学で培った歯科医療に関する知識・技能・態度をもって、

これからの厳しい実社会での成功を切に願っています。さらに、今年度の教育も、COVID-19 禍中、二年前とは異なる環境で展開されてきました。今日の卒業式に臨んでいる学生諸君に対して、これから歯科医療人として口腔保健医療活動に従事するにあたり、「宿命に挑み、夢見て行い、結果を出す」ということを求めます。ぜひ、このことを胸に抱き、いかなる状況においても、生涯学習の気持ちを持ち続けるなかで、常に前向きにチャレンジする精神をもって、歯科医療人としてお励みください。

九州歯科大学は、2015年10月、あらたに九州歯科大学憲章を制定し、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、実践的な歯科医療人育成教育を推進してきました。この九州歯科大学憲章の前文には、「平成26年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」という文言が綴られています。この憲章のもとで、歯学教育を展開するにあたり、求められる3つのポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミ

ッションポリシーを定め、社会に向けて発信しています。さらに、これに符合させる形で、本学の 2 つの学科それぞれに卒業コンピテンシーを定め、学部教育を展開しています。まさに、このプロセスのなか、本学で学修してきた皆さんは、大学卒業後、あらたな組織で歯科医療人として活動していくにあたり、その基盤となる「知識・技能・態度」はしっかりと身につけていると判定されたことを矜持とし、これから先、いかなる状況にあっても、本学での教えを基盤にして、常に高い志と向上心を忘れることなく、生涯学習に励んでください。そして、様々な局面で自らに課題を課し、培ってきた知識と技能ならびに高い倫理観をもって、行動する社会人になることを切に願っています。

古き良き伝統を有する九州歯科大学は、設置団体の福岡県の温かいご支援のもと、これまで通り、歯科医療界を牽引する実践的歯科医療人を育成していくことに変わりはありません。先の創立 100 周年記念式典後に整備した九州歯科大学基金を活かし、九州歯科大学はあらたに Global and Local Academic Collaboration を掲げ、アジア諸外国や欧米の歯科教育機関との間で締結した教育連携協定を

もって幅広い国際連携活動を展開しています。君たちのなかには、数年前、この活動の一つである国際連携推進事業のもと、外国で研修し、海外派遣プログラムの単位を取得した学友がいるかと思いません。

さらに、第3期中期計画のもと、昨年、ラーニングコモンズ事業として新設した講堂棟食堂におけるラーニングコモンズカフェや本館図書館内のアクティブラーニングスペースとグループワークスペースを活用して、皆さんは、歯科医師国家試験あるいは歯科衛生士国家試験合格に向けて勉強に励んだことと思います。大学が提唱している Think globally、 act locally という言葉を忘れずに、次なる歯科医療を見据えて改編を進める九州歯科大学教育プログラムのもとで修学した皆さんには、「世界規模で考え、足元から行動せよ」という精神をもって、歯科医療人としての第一歩を力強く踏み出すことを願っています。

医療改革の流れのなかで、我が国では、2025年を目途に「地域包括ケアシステム」が展開されます。そのなかで、我々歯科医療人に

は、これまでの歯科診療所での医療に加えて、多職種連携を通じて、地域住民の健康増進に貢献することが強く求められます。九州歯科大学は、このような歯科医療を取り巻く環境の変化をいち早くとらえ、歯学教育を改編してきました。そのようななか、今年度の卒業生は、COVID-19 渦中ということもあり、本学附属病院実習以外の医科総合病院や介護施設での臨地実習を予定通り経験することができませんでした。誠に残念ではありますが、歯科医師と歯科衛生士からなるオーラルヘルスチームとしての活動は、今後、ますます重要となってきます。本学では、このようなオーラルヘルスチームによる医療活動を重点項目として捉えて、ポストコロナを見据えて、大学として教育組織再編を行うなかで充実させていきます。今後、卒業生の皆さんも、卒業後の歯科医療活動において、本学の歩みに同調した生涯学習を重ね、新たな歯科医療に取り組むことを強く望みます。

むすびに、皆さんも良く知っているチャールズ・ダーウィンが、「種の起源」で述べている言葉を紹介します。曰く、「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一、生き

残るのは変化できる者である。」。現在の COVID-19 禍中、あえて卒業生諸君にこの言葉を伝え、世界的に不安定な社会状況のなかで、戸惑いながらであっても、卒業後、次世代のニューリーダーとして社会に貢献する歯科医療人となる道を歩むにあたり、皆さんが生涯を通じて常に前向きに学習し、そして変化していくことを切に願い、私からの式辞とします。

令和4年 3月11日

九州歯科大学

学長 西原 達次